

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

## 一 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 一

平成28年4月19日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要を示します。申すまでもなく、この調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。したがって、調査結果は、全国の状況を参考にしながら、本市の教育施策の成果と課題を把握するための一つの指標と考えています。また、学習や生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導方法の充実・改善、児童生徒一人一人の学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいります。

### 1 実施の状況

4月19日に調査を実施した川崎市立学校は166校で、児童生徒合計約20,500人が参加した。

内 訳：小学校 113校 中学校 52校 特別支援学校 1校

参加人数：小学校調査 約11,350人 中学校調査 約9,150人

※ 小学校は第6学年、中学校は第3学年が対象

※ 調査の種類により調査人数は若干変動

### 2 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 教科に関する調査の平均正答数(問)と平均正答率(%)

平成 28年度 (公立)	小学校調査								中学校調査							
	国語				算数				国語				数学			
	A(15問)		B(10問)		A(16問)		B(13問)		A(33問)		B(9問)		A(36問)		B(15問)	
正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	
川崎市	10.7	72	6.1	61	12.4	78	6.4	50	25.1	76	6.1	68	22.4	62	6.9	46
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44
差	-0.2	-1	0.3	3	0	0	0.3	3	0.1	0	0.1	1	0	0	0.3	2

A：主として「知識」に関する問題 B：主として「活用」に関する問題

#### (2) 全体の傾向

本市においては、上記(1)の8項目のいずれの平均正答率も全国に対して±5ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

#### (3) 各教科の概要 (◇：よい状況と考えられる点 ◆：課題があると考えられる点)

##### 【小学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において全国の結果を上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、下回っている。B問題では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において、全国の結果を上回っている。

##### 話すこと・聞くこと

- ◇ 目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うこと
- ◆ 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること

##### 書くこと

- ◆ グラフを基に、分かったことを的確に書くこと

##### 読むこと

- ◇ 目的に応じて図と表とを関係付けて読むこと

##### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと
- ◆ 濁音や促音を含む平仮名で表記された簡単な単語をローマ字で書くこと

### 【小学校 算数】

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では「量と測定」「数量関係」において全国の結果を上回っているが、「数と計算」「図形」については下回っている。B問題では、全ての領域において上回っている。

- 数と計算** ◇除法における計算の確かめ方法を理解すること  
◆示された式の中の数値が表す意味を解釈し、それを言葉や数を用いて記述すること
- 量と測定** ◇三角形の底辺と高さの関係について理解すること  
◆面積が $1\text{ cm}^2$ 小さくなることの説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を言葉と式を用いて記述すること
- 図形** ◇図形の構成要素に着目して、4枚の三角定規を用いて図形を構成すること  
◆図形の構成する角の大きさを基に、示された四角形を並べてできる形がどれであるかを判断すること
- 数量関係** ◇示された場面を読み取り、列に並んでいる全体の人数を求める式に表すこと  
◆グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を言葉や数を用いて記述すること

### 【中学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、下回っている。B問題では、「書くこと」「読むこと」の領域において、全国の結果を上回っている。

#### 話すこと・聞くこと

◇相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すこと

#### 書くこと

◆課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること

#### 読むこと

◇文脈の中における語句の意味を理解することや、登場人物の言動の意味を考え内容を理解すること

◆課題解決に必要な情報収集の方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇語句の意味を理解し文脈の中で、適切に使うこと

◆文脈に即して漢字を正しく書くこと

◆文の成分の照応について理解すること

### 【中学校 数学】

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較するとA問題では「数と式」「関数」「資料の活用」の領域において全国の結果を上回っているが、「図形」については下回っている。B問題では、全ての領域において上回っている。

**数と式** ◇2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すこと

◆具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくること

#### 図形

◆円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の $1/3$ であることを理解すること

◆付加された条件( $DA : DC = 1 : 2$ )の下で、 $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを、「～ならば…である。」という形で説明すること

#### 関数

◇比例関係の表から変化や対応の特徴を捉え、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めること

◆前提である条件が不足している場合に、加えるべき条件(「 $y$ は $x$ に反比例しています」)を判断し、それが正しい理由を説明すること

#### 資料の活用

◆資料を整理した表から最頻値を読み取ること

◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

### 3 児童生徒質問紙調査結果の概要

○朝食を毎日食べている。	小学校	95.0%	中学校	90.4%
○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	小学校	78.0%	中学校	69.4%
○自分には、よいところがあると思う。	小学校	79.0%	中学校	69.1%
○将来の夢や目標を持っている。	小学校	83.1%	中学校	67.8%
○学校の授業時間以外の勉強時間。(※)				
・2時間以上	小学校	35.0%	中学校	40.1%
・30分以下	小学校	17.5%	中学校	17.6%
○家の人と学校での出来事について話をしている。	小学校	79.3%	中学校	71.8%
○家で、自分で計画を立てて勉強している。	小学校	59.5%	中学校	46.5%
○学校に行くのは楽しいと思う。	小学校	87.4%	中学校	81.6%
○学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なった意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い意見をまとめている。	小学校	59.5%	中学校	61.7%
○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	小学校	86.0%	中学校	82.2%
○地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。	小学校	70.2%	中学校	62.3%
○人の役に立つ人間になりたいと思う。	小学校	93.2%	中学校	90.9%
○学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい。	小学校	48.6%	中学校	58.1%
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	小学校	69.6%	中学校	66.9%
○国語の授業の内容はよく分かる。	小学校	83.5%	中学校	73.5%
○算数・数学の授業の内容はよく分かる。	小学校	79.3%	中学校	69.8%

- ・数値には「どちらかといえば」を含む
- ・(※)印は「普段(月～金)1日当たりの時間」

#### ◎今後の対応

教育委員会といたしましては、調査結果から明らかになった児童生徒の学習や生活の状況を踏まえ、教育施策の充実を図るとともに、各学校の全国学力・学習状況調査を活用した児童生徒の学力向上に向けた取組について、学校と保護者・地域が一体となって推進していけるよう、支援してまいります。また、各学校において調査結果報告書を作成し、保護者・地域に調査結果及び教育指導の改善等に関する情報を提供いたします。

#### 【担当】

総合教育センター  
カリキュラムセンター 担当課長  
電話 844-3730